

創立者 大倉 邦彦

(OKURA Kunihiko)



1882年(明治15)4月9日、江原家の次男として、佐賀県に生まれ、後に大倉家の養子となりました。大倉邦彦は、大倉洋紙店・特種製紙・大倉製作所等の企業を営む実業家であり、富士見幼稚園・農村工芸学院・浄牧院等の学校を創立したり、後に東洋大学学長を務める教育者でもありました。

大倉精神文化研究所の創設者であり、研究所の本館建物(現、大倉山記念館)の施主である大倉邦彦は、清らかで強い心と豊かな知性を兼ね備えた人材を育成するために、この地で修養会、本の出版、図書館の公開など様々な活動を行いました。

1971年(昭和46)没、享年89。号は、三空居士。

設計者 長野 宇平治

(NAGANO Uheiji)



1867年(慶応3)越後国(現、新潟県)高田生まれ。近代建築の父辰野金吾の弟子として、日本銀行の増改築、全国各地の銀行など重厚で格調高い建築を数多く手がけました。また、日本建築士会を組織するなど日本建築史に大きな足跡を残した古典主義建築の第一人者です。

「東西文化の融合」を掲げた大倉邦彦の理想に深く共鳴した長野は、大倉精神文化研究所本館の設計をするにあたり

、古代ギリシャ文明よりも古いクレタ・ミケーネ文明の建築様式を採用し、自ら「プレ・ヘレニック様式」と名付けました。プレ・ヘレニックとは、「ギリシャ以前の」という意味です。長野は、建物全体をプレ・ヘレニック様式で統一的にデザインすると共に、部分的には東洋の意匠も取り入れ、まさに東西文化が溶け合った独特の様式美を持つ建造物を創り上げました。長野は1937年(昭和12)に没したため、単独の建物としては大倉山記念館が最後の作品となりました。

施設紹介

【横浜市大倉山記念館】

横浜市民の皆様の公共施設として、集会室、ホール、ギャラリーの貸出を行っています。見学や撮影などにもご利用いただけます。

<http://o-kurayama.com>
TEL 045-544-1881

大倉山記念館のホームページがご覧になれます→



【公益財団法人 大倉精神文化研究所】

「東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化に関する科学研究及び普及活動を行い、国民の知性及び道義の高揚を図ることにより、心豊かな国民生活の実現に資し、もって日本文化の振興及び世界の文化の進展に寄与する」ことを目的としています。

<http://www.okuraken.or.jp/>
TEL 045-542-0050

大倉精神文化研究所のホームページがご覧になれます→

【大倉精神文化研究所附属図書館】

哲学・宗教・歴史・文学などを中心に、入門書から専門書までを収集・所蔵しており、どなたでもご自由にご利用頂けます。

<http://www.okuraken.or.jp/tosyokan/>
TEL 045-834-6636

大倉精神文化研究所附属図書館のホームページがご覧になれます→



※開館時間・休館日などは、上記施設のホームページまたはお電話でお問い合わせください。



横浜市大倉山記念館

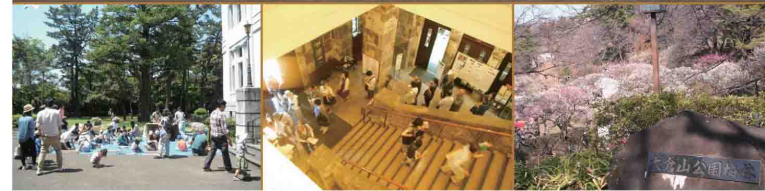
Okurayama Memorial Hall

Information of the architecture

建物のご紹介



2016年現在



東急東横線
大倉山駅より徒歩約7分

〒222-0037 横浜市港北区大倉山二丁目10番1号

発行日：2020年(令和2年)1月

編集・発行：日比谷花壇・西田装美共同事業体、公益財団法人 大倉精神文化研究所



昭和初期の撮影



大倉精神文化研究所新本館建築現場

建物の概要

この建物は、1932年(昭和7)4月9日に大倉精神文化研究所の本館として竣工しました。一見すると石造りの神殿ようですが、鉄骨・鉄筋コンクリート造です。建物を造らせたのは実業家の大倉邦彦、設計は長野宇平治です。



1981年(昭和56)に横浜市が研究所から寄贈を受け、市民利用施設として改修を施しましたが、ほぼ原形をとどめています。横浜市大倉山記念館として、1984年(昭和59)10月27日にオープンしました。

近代建築史上に重要な位置を占める建物として、1991年(平成3)に横浜市指定有形文化財に指定され、現在に至ります。

About the architecture

The building was constructed as the main facility of the Okura Institute for the Study of Spiritual Culture on April 9, 1932. It appears to be a stone-built temple, but is actually a steel-framed, reinforced-concrete structure. The building was established by businessman OKURA Kunihiro, and was created by NAGANO Uheiji. Donated by the Okura Institute for the Study of Spiritual Culture to Yokohama City in 1981. It then had some renovation to be publicly available for citizens, but still retains most of its original features. On October 27, 1984, the facility was reborn and opened as the Okurayama Memorial Hall of the City of Yokohama. The construction was designated as a tangible cultural property by the City of Yokohama for its centerpiece of modern architecture in 1991.

デザインの特徴

長野宇平治が採用・命名したプレ・ヘレニク様式の特徴は、①楕ぼそりの柱、②円盤列、③三角型空間、④ロゼット、⑤山形と螺旋文様の構成装飾等に見られます。建物だけでなく、初期に制作された机やイスなどの什器類も、プレ・ヘレニクの統一デザインで設計されています。東洋の意匠は、⑥正面破風の八咫鏡と鳳凰の彫刻、⑦ホール内四隅の柱上部に付けられた斗拱などに見られます。



①楕ぼそりの柱



②円盤列



③三角型空間



④ロゼット



⑤山形と螺旋文様の構成装飾



⑥正面破風の彫刻



⑦斗拱

館内の見どころ

この建物は、大倉邦彦が理想とする人間像を形にしたものです。「心」に見立てられた中央館・殿堂(現ホール)・回廊(現ギャラリー)を、「知性」に見立てられた東館・西館が囲む構造になっています。例えば、現在のギャラリーである回廊は、かつては心を鍛える坐禅を行う場でしたし、図書館の書庫は、「知性」を示す東館に位置しています。

今は手に入らない
網代模様のタイル



階段裏にひっそりと
残る留魂礎碑



玄関を入り上を見上げると
テラコッタ製の彫刻が見事



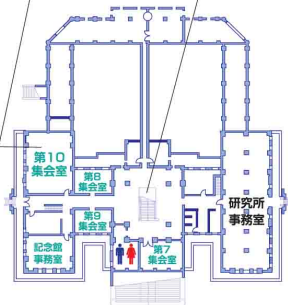
当初から施された
暖炉風の装飾



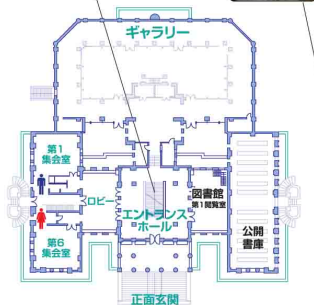
昔懐かしい黒板は
今も現役



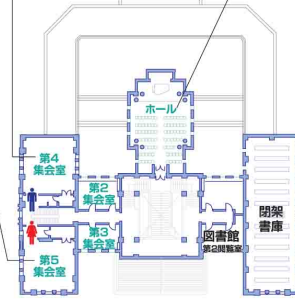
天井の木組みは
圧巻の美しさ



- 1 F**
- 第7集会室(製本室)
 - 第8集会室(研究所事務室)
 - 第9集会室(談話室)
 - 第10集会室(食堂)
 - 記念館事務室(読書室・宿直室)
 - 留魂礎碑(留魂碑、中央階段裏)



- 2 F**
- 図書館第1閲覧室(司書室)
 - ロビー(目録カード室)
 - 第1集会室(閲覧室)
 - 第6集会室(所長室)
 - ギャラリー(回廊(坐禅室))
 - エントランスホール(心の間)



- 3 F**
- 図書館第2閲覧室(研究室)
 - ホール(殿堂)
 - 第2・3集会室(研究室)
 - 第4集会室(講義室)
 - 第5集会室(応接室)

(カッコ内は1981年頃、時期により用途は異なる)

基本データ

- 標高:約150尺(45.5m)の丘の上
- 構造:鉄骨・鉄筋コンクリート造り3階建て
書庫には5層架構鋼鉄製書架を設置
- 延べ床面積:819坪699(2,709㎡)
- 建物高さ:約84尺5寸(25.6m)
- 吹き抜けの高さ:約21m
- 建築様式:プレ・ヘレニク様式
- 施主:大倉邦彦
- 設計:長野宇平治・荒木孝平
- 施工:竹中工務店
- 建築費用:45万9,356円18銭
(現在に換算すると数十億円)
- 石材:石川県小松産千歳石
- 吹き抜けの彫刻:水谷鏡也制作のテラコッタ

戦時中の昭和19年9月~昭和20年8月には海軍気象部(第5分室)が入っており、主に海霧の研究と気象通信の暗号解読という活動を行っていました。戦後、研究所附属図書館は財政難の影響で昭和25年~35年まで、国立国会図書館の支部図書館となっていたこともありました。

※各集会室・ホールの中は、通常時はご覧いただけません

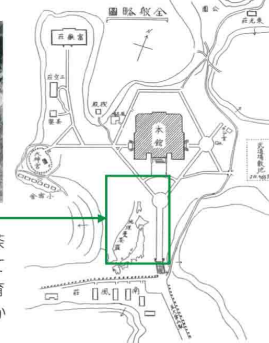
沿革

- 1882 大倉邦彦誕生
- 1928 神奈川県大田区(現 港北区大倉山)の丘を東急から買い取る
- 1929 大倉精神文化研究所本館(大倉山記念館)の建設開始
- 1932 大倉精神文化研究所本館竣工、研究所開設
- 1944 海軍気象部が第5分室として使用(~1945)
- 1950 附属図書館が国立国会図書館の支部図書館になる(~1960)
- 1971 大倉邦彦死去(89歳)
- 1981 横浜市、研究所の敷地を購入し、建物の寄贈を受ける
- 1984 研究所本館を横浜市大倉山記念館と改称し、オープン
- 1991 大倉山記念館、横浜市指定有形文化財に指定
- 2004 研究所本館の建設関係資料4,546点、横浜市指定有形文化財に指定
- 2006 大倉山記念館に指定管理者制度を導入
- 2012 大倉精神文化研究所が公益財団法人となる
- 2016 日比谷花壇・西田装美共同事業体が指定管理者となる

大倉山コラム

大倉邦彦が建物に込めた思想

かつて、大倉山記念館の前庭の一角には、日本列島の形に芝をはり松の木を植え、周りに砂利を敷き詰めた庭園があり、「地理曼荼羅」と呼ばれていました。現在、大きく育った松の木にその名残りを見て取れます。大倉邦彦は、建物を人間に見立て、地理曼荼羅で日本を、大倉山全体で地球を表し、全てが一体であると考えました。大倉は、人を育てることにより日本を良くし、大倉山の地から世界を良くしたいと考えたのです。



大倉山エルム通り商店街

1988年(昭和63)、駅前から西北にのびる商店街は、大倉山記念館にちなんでギリシャ風の町並みに統一しました。そして、大倉山エルム通りと名付け、アテナ市のエルム通りと姉妹提携を結びました。大倉山記念館は横浜市の第1回まちなみ景観賞を、エルム通りは第3回まちなみ景観賞を受賞しています。ちなみに、東口商店街はレモンロードといえます。

記念館坂、梅見坂、オリーブ坂

駅から大倉山記念館へ上る坂道を、記念館坂といいます。大倉山記念館から梅見坂を通って龍松院へ下る坂道が、梅見坂です。梅見坂の途中、記念館裏から分かれて左手の階段を下り、大倉山アソカ幼稚園の脇に出る坂道を、オリーブ坂といいます。幼稚園の前からバス通りを左へ歩くと、エルム通りとなり、その先が大倉山駅です。ぐるりと一周することができます。

(大倉山をもっと知りたい! 港北のことは何でも知りたい! そんな想いを本にしました。「わがまち港北」「わがまち港北2」、お読みください。)

塔の上よりパノラマ写真

網島 武蔵小杉

榎町

川崎

鶴見

横浜ベイブリッジ

みなとみらい

新横浜

日産スタジアム

富士山

北

東

南

西